北海道旭川盲学校　学校運営協議会だより

きれんじゃく



令和８年11月17日
第２号

令和８年度北海道旭川盲学校第２回学校運営協議会を11月12日（木）に次のとおり開催しました。

（１）学校行事について（お米作り体験、学習発表会、北海道盲学校文化体育活動発表大会など）

（２）２グループでの熟議

教頭からの説明後、熟議において委員の皆様からご意見や学校運営へのご示唆をいただきました。さらに、今後のコミュニティ・スクールにおける、学校と地域の連携のための取組について協議を深めました。



これまでの会議では初となる２グループの熟議で、「学校と地域との連携のための取組」について貴重なご意見をいただきました。

Ａグループ

サポーターやボランティアなどを募り、学校行事を子どもたちと一緒に取り組むことができるとよいのではないか。

学校のある町内がどのようになっているのか、道や場所などの様子について町内探検隊のような活動ができるとよいのではないか。

社会見学の紹介があったが、今後 ATM の体験があるとさらに自立した生活につながるのではないか。



色の見やすさやエレベータの上下への行き先のわかりやすさなど、庁舎への要望について情報共有した。

エスコートゾーンの設置について、説明会に参加した。誰にとっても見やすく使いやすいことや冬期間の課題などについて情報共有した。

少人数化に伴い、卒業後の進路について、道内４校の盲学校が連携した情報提供があるとよいでのでないか。



Ｂグループ

道内の視覚支援学校と盲学校の現状について情報共有した。

お米作り体験についての身近な方とのふれあいや、町内とのつながりなど地域とのふれあいとつながりを大切にした取組を続けていきたい。

町内に昔から盲学校があったことが当たり前の存在で、挨拶や町内での学習など無理なく普通に接することができる。

卒業生を招いて、鍼灸の資格にとらわれずに ICT を含め幅広い分野からの話を聞く機会があるとよいのではないか。

いただいたご意見を本校の中でも協議し、学校だけでなく学校から離れてみたときの視点を大切にしながら職員のアイデアを募りさらに検討を重ねたいと思います。そして、地域と学校の結びつきにつなげていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。